

# 寄宿舎における 生活自立に向けた支援内容の工夫

～卒業後の生徒自身の生活を見据えた工夫～

熊本県立ひのくに高等支援学校



## 1 はじめに

本校は平成13年に県内唯一の高等部のみの特別支援学校として合志市に開校した。生徒は県内一円から入学してくるため、通学支援のための施設として、開校と同時に寄宿舎が併設された。現在は30人の生徒が入舎しており、12人の寄宿舎指導員がその生活支援等にあたっている。

本年度、寄宿舎では、本校の教育目標を受けて、寄宿舎の目標を以下の3点とした。

- (1) 生徒一人一人の生活力向上を図り、たくましく生きる力を育成する。
- (2) 集団生活をとおして、協調性と責任感、自律性と自主性を培う。
- (3) 豊かな生活の実現のために興味・関心の拡大、趣味・特技の充実を図る。

また、学校目標の実現のために示された本年度の具体的指針として、「生徒の生活自立に向けた寄宿舎における新たな指導内容や方法の構築を行う」という内容があり、それらを基に現在、実際の取組を行っている。

## 2 卒業後について

寄宿舎生の卒業後の就労先は一般就労が約7割、その他は就労継続支援A型事業所である。その中で約5割の生徒がグループホームを利用している。最近は自動車普通免許の取得希望者が増加し、それに伴い在学中から自動車学校に通う生徒がいる。

## 3 余暇時間の有効活用のために

本校寄宿舎生の卒業後の課題としていくつかの事項が挙げられるが、グループホームを利用する卒業生も多数いることから、終業後の時間や休日の時間の活用をより有効にできるようにすることを大きな課題の一つとして取り組むこととした。そのために、本年度は日課時間を見直した。昨年度までは20時から21時までの時間を「自主」時間とし、委員会活動やサークル活動などを行い、職員から活動内容を指示していた。その時間を本年度からは「自習」時間として、その時間に活動する内容を自ら考え、自由に取り組むことができる時間とした。



また、これまで舎生の自治活動として設置していた会長と副会長、書記を学年代表と男子・女子棟代表と改め、定期・不定期に学年会を実施し寄宿舍での問題点を議論する場を設けた。それらの意見は各学年会で検討したり、月1回開催する寄宿舍集会での議題にすることができている。生徒の感想として、「今までの形では個人個人の意見が出しにくかったけれど、学年会なら少人数なので、意見が出しやすくなった」「小さな課題から大きな課題まで、さまざまなテーマで話し合いができるようになった」等が挙げられた。さらに、それらとは別に委員会活動で行っていた「放送当番や新聞の片付け・綴じ込み、冷蔵庫の片付け、花壇の手入れ等」を社会に出てからは自らできるようになることが必要ではないかと考え、当番制とすることとした。



自習時間を取り入れ、半年が過ぎた時点で生徒にアンケートを行ったところ以下のような回答となった。

Q 自習時間には何をしていますか。(複数回答)

学校の宿題や課題：22人 読書：8人 自分の好きなこと(絵を描く)：1人  
漢検や原付免許取得等、資格取得のための学習：7人

Q 漢検や原付・自動車免許取得などの問題を準備したら、自習時間にやってみたいですか

はい：18人 いいえ：11人

Q 他に準備してほしいプリント等ありますか

地理の問題 計算問題 編み物について 英会話 アニメ絵の模写 など

傾向として、やるべき事があればそれにまじめに取り組むことはできるが、自分から積極的に「すること」「やりたいこと」を考えて行動することはできていないことがわかった。今後、寄宿舍で課題を準備することとあわせて、生徒が職員に必要なものを依頼したり、購入しておくなど、自分で準備できるように支援を行っていきたい。

これらのことの実現の前段階として、以前から行ってきたことではあるが、「自分の身の周りのことは自分でできるようになること」がある。掃除や洗濯等ではできるが、言われてからするのではなく、人から言われずにその必要性を理解して、自分から気がついて進んで行動できるように、今年度から行動前には必要以上に声かけを行わず、行動の終了後に職員に報告をした時点で、きちんとできたかの確認をするようにした。

今後も寄宿舍の目標達成と、なお且つ「安全・安心で健康的な生活」のために過度な支援にならないよう、注意深く生徒の様子を見守りながら支援を行っていきたい。

### ☆ 今年度の寄宿舍テーマ ☆

